

横浜オンリーワンを目指して。

4月30日(木)日本アグファ・ゲバルト株式会社によるCTP講習会開催。



創刊号に寄せて

新緑の候、本年度入社された方々は、職場に慣れたでしょうか。体調管理には、十分気をつけてください。

今回社内報が創刊され、みなさまの情報共有の一助になればと、思っております。

さて、昨今のデジタル機器の進歩には、目覚ましいものがありますが、作業の簡易化、自動化オープン化は、さらに進むものと考えられます。コスト、納期、ロット、品質、環境対応という問題解決にあたり、日本アグファの四六全判CTPシステム導入を決めました。時間当たりの生産性・自動化率も最新鋭の機器です。

また高精細に対応した最新のインクジェットのコンビも弊社の特徴になると思います。

編集作業のオープン化に対応し、ますます増えるイ

ンデザインやクオーク等のソフトに対する取り組みは、最新のシステムにより、高効率・さらなる内製化が進むと期待しています。

入力・編集作業の方々の更なる技術取得、また営業の方々のクライアントに対するデータチェック等のソフトに対する知識が、弊社に対する信頼性、また作業の能率化に寄与するものと思われれます。

特に今回の設備投資は、環境保護印刷に対する取り組みに対して、1歩も2歩も進むものと期待しております。

また刷り部門に関しましては、オリバー四色機の二交代制を進めたいと考えています。

本年度も宜しくお願い致します。



代表取締役
茂手木 敬三

PDF入稿に対応する現場を目指そう!

印刷の現場でよく耳にする「PDF」。しかし、PDFってそもそもどういったものか知っていますか? メリット・デメリットはなんでしょう? 今回はそのPDFについてのお話です。

そもそもPDFってなに?

Adobe Systems社によって開発された、電子文書のためのフォーマットです。レイアウトソフトなどで作成したデータを電子的に配布することができ、相手のコンピュータの機種や環境を問わず、元のイメージを高い精度で再生することができます。文字情報だけでなく、フォントや文字の大きさ、字飾り、埋め込まれた画像、それらのレイアウトなどの情報も保存できます。

紙資料をスキャンして作った画像の上に、OCRソフトウェアで作成した透明テキストを重ね、1つのファイルとして保存することができます。こうしたPDFのドキュメントでは(画面上で見える場合には)紙資料の内容を完全に再現でき、不完全ではあるがテキストの再利用もできます。

どうしてPDF入稿するの?

原稿作成方法の制限が小さくなる。

画像ファイルの添付し忘れやエラーの発生を少なくできる。

データサイズをコンパクトにすることができる。

ただし作成方法によっては、
商業印刷には使えないPDFファイルが生成されることもある。

紙資料をスキャンして作成したPDFファイルを商業印刷として使うことはできません。目的とする印刷品質を得るためには、フォントの埋め込みや印刷時に使用する色の情報、画像解像度などをPDFファイル作成時に適切に設定する必要があります。

この設定を行うにはコンピュータの操作方法ならびに印刷物とその製造工程を的確に理解していることが必須であるため、誰でも確実に行うことができるとは言い難いですね。

こんなトラブルがありました。

01 画面では表示されているのに、印刷すると線が消える

画面上では、右のように表示されますが、調べると線の幅が0.1pt(0.03mm)という数値になっており、細すぎて印刷には出ません。



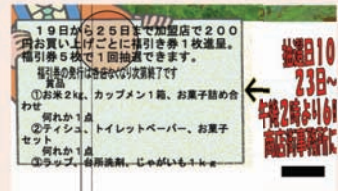
02 色がおかしい(墨が4色・RGBカラー)

一見黒ですが、調べると他の色が入っており、印刷の際にじんじんです。罫線や文字でこの様な事が起こると、見当ズレで見難い印刷物になってしまいます。



03 文字が化けてしまう。

25日の数字の「2」と「5」が違うフォント・違う大きさです。



04 塗り足しがない・効果が適用されない

写真が切れており、塗り足しまでありません。また、ベタの透明が、画像になり、細かいアミのようなものになっています。



印刷範囲 理想 効果

誰でも簡単にPDFを作成・編集・確認・修正できることを目指しましょう!

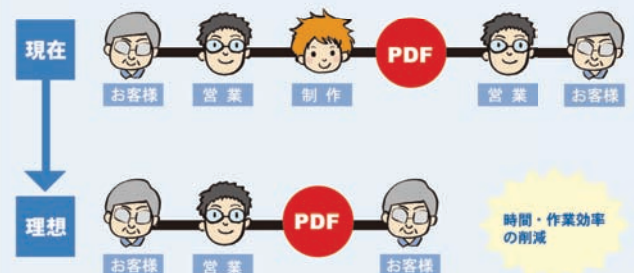
これからのツルミ印刷は、制作だけではなく営業もPDFを印刷用に加工できるよう取り組んでいきます。

制作・営業の全員がPDFの作成・編集・確認・修正作業を浸透させることができれば、効率の良い作業環境になります。

編集作業 塗りたしの作成・ページサイズや色の変換等

確認作業 作成したPDF文書に、指定した以外の機能、フォントおよび書式設定が含まれていないか等

修正作業 自動修正の設定・何100ページあるファイルでも、必要箇所だけ修正等



整理 seirise-ton 整頓

第1章

机の上にあるデメリット

机の上が乱雑でも、「どこに何があるか把握しているから大丈夫」という人もいます。

こういう人に限って、仕事を始める前に机の上をガサゴソと資料を探していたり、電話がかかってきたときに、「ちょっと待って、その資料この辺にあったはずなので…」などと言いながら無駄な時間を費やしているのです。

ある機関紙では、ビジネスマンがオフィスで探し物をする時間を、年間で6週間に及ぶと報じています。

1日の仕事を8時間とすると、1時間弱物を探しているのです。これは大変な無駄です。我々の仕事時間の1割以上が探し物のために消えているのです。

毎日1時間弱の時間を無駄にしていることによって生じる損失は右のとおりです。

机が散らかっていることによるデメリット

1 貴重な仕事時間(約10%)の損失



2 探し物のためストレスがたまり、仕事への集中力がなくなる。



3 この時間を有効に使えなかったことによる機会の損失。



こういった損失は一般には目に見えない(外部に出て行かない)損失なので、毎年膨大な損失(およそ社員一人当たり年収の20%程度)を被っていても気づかないのかもしれないかもしれません。これを改善することで、オフィスの知的生産性の向上に直接つながってきます。

探していた書類が見つかった後、「なぜ紛失したのか?」と考えたことはありますか?なぜ見つからなかったのでしょうか?

それは、**あるべき場所**が決まっていなかったから紛失したのです。

このFAXはここへ、あの伝票はこの中に、郵便物はこのトレーにと、それぞれ**あるべき場所**を決めてしまえば、書類の紛失による大搜索を繰り返さないでよいのです。そのため、一度決めた場所は決して変更してはいけません。

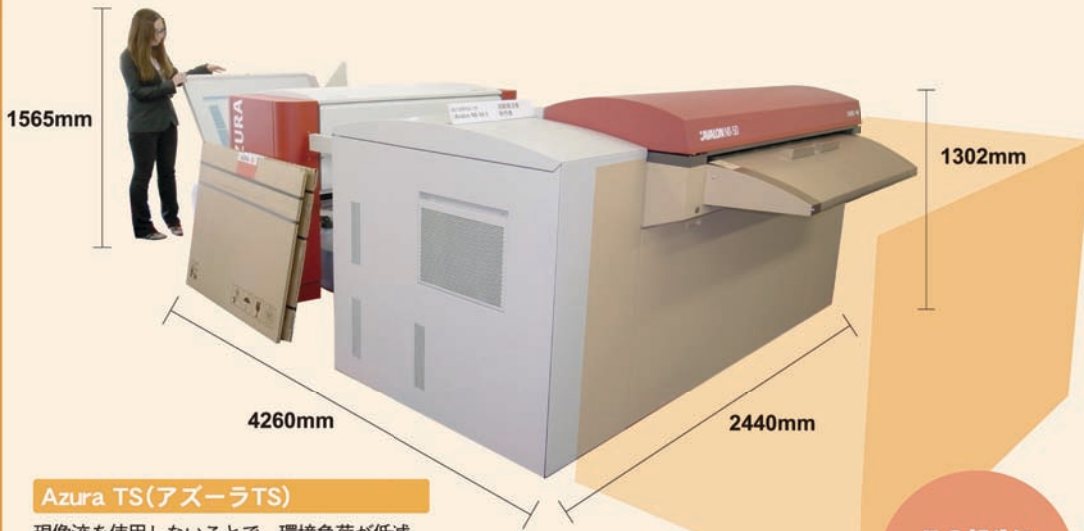
▶ 次回は、「ファイリング～収納場所～」を特集します。



新設備
のご紹介

ずっしりと、しかしきめ細やか。

今後「ツルミ印刷」の目玉となる新しいCTP、Avalon N8(アバロン N8)を一足先に制作部の3名が説明を受けに行ってきました。



Azura TS(アズラTS)

現像液を使用しないことで、環境負荷が低減。今後環境のことを考えた取組を進められます。



1.レーザーで 2.ガム液により 3.従来通りに
画線部を露光 非画線部を洗浄 検版できます



▲ 説明を受けています。

この部分に
オートローダーが
つきます

PX-H10000

強力なカラーマネージメント機能により高品質な出力を、高濃度顔料インクで高画質と高い安定性を実現しました。また、新開発の高性能ヘッドによる高速印刷で高い生産性を見込みます。



Sublima(スプリマ)

一般的には175線が一般的ですが、210線から340線といった高精細出力を実現します。また、中間・ハイライト・シャドウ部で密度を調整し、高い線数であっても1~99%の階調再現を行います。



▲ 比較イメージ。左がSublima。

新機材導入による部署移動のお知らせ。

導入予定場所は現在、営業・管理・制作がいる4階になります。

しかし、この新しいCTPは上記のようにとても大きいため、スペースの確保に伴い営業・管理部は3階に部署を移動することになりました。

新しい間取りは右記の形になる予定です。どうぞよろしくお願ひします。

4F 制作

3F 営業
管理

2F 製本

1F 印刷





一年の締めとして社内で打ち上げが行われました。社長の挨拶から始まり、自己紹介・ビンゴ大会が行われ、会話を楽しみながら食事をしました。



いっせーい

いっぱい食べてね

BINGO!!!



この貫禄!!!

CTP 講習会開催の様子

今回は日本アグファ・ゲバルトの吉田氏が高精細CTPアバロン・環境にやさしいケミカルレスCTPアズーラ等、新システムの説明を、ソフトウェアーツの河合氏にはPDF入稿の講義をして頂きました。



今号の表紙

Photo.伊東



今朝は少し早起きをして、一つ前の電車に乗り途中下車をしました。ここはJR鶴見線の弁天橋駅です。会社がある安善駅もレトロですが、こちらも味のある駅です。(途中下車するなら早く会社に来い！と叱られそうですが)たまには気分転換で違う空間を味わうのもいかがですか？

編集後記

二川と細谷が仕事の合間に頑張って仕上げてください、しかも創刊号とあって、二人とも気合を入れてくれました。【横浜オンリーワンを目指して】のキャッチコピーと全体デザイン構想図は堀越部長が担当。PDF資料集めからの原稿作り担当は二川です。難しい原稿作りお疲れ様でした。ビンゴの切り抜き！目が痛くなりそうです。こちらは細谷が担当しました。皆さんお疲れ様でした。